

日蓮大聖人御書全集

こうしごしょ

孝子御書

こうしじしょ

# 孝子御書

こうあん

ねん

がつ

にち

さい

いけがみむねなが

弘安 2年 (79)

2月 28日

58歳

池上宗長

御親父御逝去の由、風聞真にてや候らん。貴辺と  
たいふのさかん おんこと よしまっぽう い しそう  
きへん

大夫志の御事は、代末法に入つて生を辺土にうけ法華の大  
だいほう ごしんようそうちら あつきさだ こくしゆ ふぼとう おんみ  
法を御信用候えば、悪鬼定めて國主と父母等の御身に入  
りかわり怨をなさんこと、疑いなかるべきところに、案に  
あだ うたが

り違ことなく、親父より度々の御かんどうをこうぼらせ給  
きょうだい しんぶ たびたび ご 勘 当 被  
たま

たがうことなく、親父より度々の御かんどうをこうぼらせ給  
じょうぞう じょうげん ごしん

いしかども、兄弟ともに淨藏・淨眼の後身か、はたまた薬  
やく

おう やくじょう おんはか

王・薬上の御計らいかのゆえに、ついに事ゆえなく親父の御  
ご しんぶ

勸

氣

許

たま

さき

た

じゅうよう じゅうろ

かんきをゆりさせ給いて、前に立てまいらせし御孝養、心に

任

たま

こうし

さだ

てん

まかせさせ給いぬるは、あに孝子にあらずや。定めて天より  
よろこ

ほけきょう

じゅうらせつ ごのうじゅ

も悦びをあたえ、法華經・十羅刹も御納受あるべし。

うえ きへん

おんこと

こころ

うち かん

思

そうろう

その上、貴辺の御事は心の内に感じおもうこと 候。こ

ほうもん

きょう

広

そうちら

おんようこ

もう

そうろう

の法門、經のごとくひろまり候わば、御悦び申し候べ

きょうだい

おんなか

ふわ

し。あなかし、あなかし。兄弟の御中、不和にわたら

たも

たも

たいふのさかんどの

せ給うべからず、不和にわたらせ給うべからず。大夫志殿

おんふみ

書

そうちらう

聞

きょうきょうきんげん

の御文にくわしくかきて候。きこしめすべし。恐々謹言。

こうあんにねんにがつにじゅうはちにち

にちれん

かおう

弘安二年二月二十八日

日蓮

花押

